

# 漢字

で悩活、気持ちも

# イキイキ

漢健サロンのを広げたい SNSグループ

下之郷自治会、浮気自治会、赤野井自治会では、漢字検定を用いて健康づくりにつなげる「漢健サロン」が行われています。今回は、各サロンの指導をしながら、「漢健サロン」を市内のたくさんの方の自治会や地域に広げていこうと活動している「SNSグループ」取材しました。

## 漢字検定で健康づくり 元教師の新しい挑戦

漢字検定で健康づくり  
面白い組み合わせだから  
先生も勉強しながらみんなで楽しんでいる



清水 佐代子さん

中川 法夫さん

村瀬 幸子さん

誰もが毎日読み書きしている漢字。日本漢字能力検定の10級(初級)は、小学1年生で習う漢字が出題されます。3人の元教師(中川法夫さん、清水佐代子さん、村瀬幸子さん)の名前イニシャルを組み合わせた「SNSグループ」は、「漢字検定を用いた健康サロンに取り組み地域を増やしたい」と活動しています。

下之郷に住む、元国語教師の中川さんは、退職後に漢字検定に挑戦し、準一級まで合格しました。書くことも、先生に当てられた時のドキドキも、すべてが脳活になります。サロンの前半は漢字検定のドリル、後半は漢字パズルや言葉を用いたゲームなど遊び感覚で楽しむようにしているそうです。

## 気持ちは小学1年生 うれし懐かし脳活サロン

最初にサロンが始まった下之郷自治会では、昨年6月に自治会館を試験会場として検定を受けた高齢者全員が見事合格。満点合格の人もいたとか。10月のサロンで自治会長から合格証書を手渡された人は、照れくさそうにしながらも自慢げ、とてもうれしそうにしていました。

もう一つ、漢健サロンの大きな役割が地域の仲間づくりと異年齢交流だそうです。4月に入学した新小学1年生も、翌年の4月〜6月は高齢者と一緒に模擬テストを受けて検定本番に臨みます。子どもたちのテストを採点する先生は「おじいさんとおばあさん」です。



小学生と高齢者が一緒に模擬テスト(下之郷自治会)



下之郷自治会の漢健サロン



浮気自治会の漢健サロン



赤野井自治会の漢健サロン

中川さんは「高齢になると賞状をもらうことなんてあまりないですから、喜んで額に入れて飾ってくれる人もいます。認知症の診断をされた人も仲間と楽しむことができました。」

高年齢者世帯も多いので、子どもたちと交流を深めて、脳も心もたくさんの元気とエネルギー

「外に出にくい高齢者が自治会館まで来てくれて、仲間と出会い、ゆるやかな目標を目指して楽しんでもらうのが目的。元教師の私たちも、改めて漢字を勉強したり、どうしたら楽しく勉強できるかなと考えたりして脳活になっていると思います。まずは市内の自治会に、将来は県域にまで漢健サロンを広げたい」と大きな夢を話していました。

したが、順調に参加者が増えていくそうです。

## ドリルを解いて答え合わせ 思い出も勉強もよみがえる

10級の漢検ドリルを解いてみると、確かによく知っている漢字なのですが、筆順やトメ・ハネ・ハライなど細かい部分はうる覚えなものです。一生懸命に思い出しながら机に向かってドリルの問題を解き、仲間たちと答え合わせをします。先生に当てられて懐かしいチヨークで黒板に書くこともあります。子どもの頃を思い出すことも、漢字の細かい部首や書き順を考えて